

放射線医学

1 構 成 員

	平成 25 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
准教授	1 人	
講師（うち病院籍）	1 人	(0 人)
助教（うち病院籍）	4 人	(0 人)
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	10 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	5 人	
合計	22 人	

2 教員の異動状況

阪原 晴海（教授）	(H11.4.1～現職)
鈴木 一徳（准教授）	(H14.4.1～23.1.31 講師；H23.2.1～現職)
那須 初子（講師）	(H20.4.1～現職)
山下 修平（助教）	(H17.8.1～現職)
神谷 実佳（助教）	(H20.4.1～現職)
芳澤 暢子（助教）	(H18.4.1～現職)
牛尾 貴輔（助教）	(H21.2.19～現職)

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 24 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	3 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	5.75	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	2 編	(2 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	4 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	5.06	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)
1. Sakaguchi T, Suzuki S, Inaba K, Takehara Y, Nasu H, Konno H: Peripancreatic arterial anatomy analyzed by 3-dimensional multidetector-row computed tomography. Hepatogastroenterology 59 (118): 1986-1989, 2012. [0.658]
インパクトファクターの小計 [0.658]
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの
1. Hirasawa N, Itoh Y, Naganawa S, Ishihara S, Suzuki K, Koyama K, Murao T, Asano A, Nomoto Y, Horikawa Y, Sasaoka M, Obata Y: Multi-institutional analysis of early glottic cancer from 2000 to 2005. Radiat Oncol 7: 122-128, 2012. [2.321]
 2. Uematsu T, Kasami M, Yuen S, Igarashi T, Nasu H : Comparison of 3- and 1.5-T dynamic breast MRI for visualization of spiculated masses previously identified using mammography. AJR Am J Roentgenol 198(6): W611-617, 2012. [2.775]
インパクトファクターの小計 [5.096]

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 牛尾貴輔, 竹原康雄, 阪原晴海: 腹部の系統的病変 腹部のIgG4関連疾患. 臨床放射線 57 (2): 261-271, 2012. [0.000]
 2. 阪原晴海: 核医学2012 内分泌・骨転移診断. 臨床画像 28(6): 690-699, 2012. [0.000]
インパクトファクターの小計 [0.00]
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

(5) 症例報告

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. Iwakura T, Takehara Y, Yamashita S, Nasu H, Unno N, Nishiyama M, Yamamoto N, Isoda H, Alley M, Konno H, Sakahara H: A case of paraspinal arteriovenous fistula in the lumbar spinal body assessed with time resolved three-dimensional phase contrast MRI. J Magn Reson Imaging 36 (5) :1231-1233, 2012. [2.698]
 2. Hiramatsu H, Matsui S, Yamashita S, Kamiya M, Yamashita T, Akai K, Watanabe K, Namba H:

Ruptured extracranial vertebral artery aneurysm associated with neurofibromatosis type 1 Case report.
Neurol Med Chir (Tokyo) 52 (6): 446-449, 2012. [0.733]

3. 神谷実佳, 山下修平, 平松久弥, 阪原晴海: 外傷性横行顔面動脈仮性動脈瘤に対して
1.5Fr.Marathon microcatheterとED-coilおよびNBCAを使用して治療した1例. IVR: Interventional
Radiology 27 (1): 163-166, 2012. [0.00]

インパクトファクターの小計 [3.431]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の
共同研究)

1. Miura K, Nasu H, Ogura H: Double neuroendocrine ductal carcinomas in situ coexisting with a
background of diffuse idiopathic neuroendocrine cell hyperplasia of breast a case report and hypothesis
of neuroendocrine tumor development. Pathol Int 62 (5): 331-334, 2012. [1.624]

インパクトファクターの小計 [1.624]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成 24 年度
特許取得数 (出願中含む)	0 件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 24 年度
(1) 文部科学省科学研究費	0 件 (0 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件 (0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 (0 万円)
(4) 財団助成金	0 件 (0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	2 件 (284 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	6 件 (603 万円)

- (1) 文部科学省科学研究費
(2) 厚生労働科学研究費
(3) 他政府機関による研究助成
(4) 財団助成金
(5) 受託研究または共同研究
企業 2 件

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	6 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
(3) 学会座長回数	0 件	1 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	6 件
(6) 一般演題発表数	9 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

口頭発表

ポスター発表

1. Ueda Y, Yoshimoto K, Yamaki E, Suzuki T, Yamanaka T, Yamashita D, Ogura H, Nasu H, Imi E, Sakahara H, Oda M, Yamashita Y: Time-resolved spectroscopy method for breast cancer detection. Biomedical Optics and 3D Imaging, April 29-May 2, 2012, Miami, Florida, USA.
2. Takehara Y, Kato N, Yoshise S, Raynaud J-S, Robert P, Corot C, Hokamura K, Sakahara H: Potential of rapid-clearance iron nanoparticles P904 in detecting partial lymph node metastasis. preliminary assessment with 3T clinical scanner and a rabbit model. 20th Scientific Meeting & Exhibition of International Society for Magnetic Resonance in Medicine, May 5-11, 2012, Melbourne, Australia.
3. Takahashi M, Takehara Y, Isoda H, Ooishi N, Terada M, Wakayama T, Nozaki A, Shimizu T, Alley M, Uno M, Shiiya N, Tooyama N, Ichijo K, Sakahara H: Abdominal aortic aneurysm causes hemodynamic abnormalities in the iliac arteries. 20th Scientific Meeting & Exhibition of International Society for Magnetic Resonance in Medicine, May 5-11, 2012, Melbourne, Australia.
4. Kamiya M, Yamakado K, Yamashita S, Igarashi T, Nasu H, Kawamura K, Chida T, Sakahara H: A case of Budd-Chiari syndrome treated by endovascular procedure followed by living donor liver transplantation. The 10th Asia-Pacific Congress of Cardiovascular & Interventional Radiology, May 30-June 23, 2012, Kobe, Japan.
5. Nishina Y, Miura S, Kuwahara Y, Sakahara H, Ogura H: Clinical setup of microwave mammography: phase 2. 2012 International Symposium on Antennas and Propagation (ISAP2012), Oct 30-Nov 1, Nagoya, Japan.

6. Isoda H, Onishi Y, Takehara Y, Shimizu T, Aoki K, Kosugi T, Amaya K, Sakahara H: Usefulness of velocity profiles based on 3D cine PC MR used as boundary conditions for computational fluid dynamics of an intracranial aneurysm: investigation with the aid of simulated data set. 9th meeting of International Intracranial Stent Meeting, Oct 8-12, 2012, Madison, Wisconsin, USA.
7. Ogura H, Yoshimoto K, Nasu H, Hosokawa Y, Matsunuma R, Ide Y, Yamaki E, Yamashita D, Suzuki T, Oda M, Ueda Y, Yamashita Y, Sakahara H: Clinical trial of new optical mammography. 34th San Antonio Breast Cancer Symposium, December 4-8, 2012, San Antonio, TX, USA.
8. Sugiyama M, Takehara Y, Saito T, Ooishi N, Alley M, Wakayama T, Terada M, Yoshihara S, Sakahara H: Abnormal flow dynamics within the ascending aorta of the patients with aortic valve stenosis. Assessments with phase resolved three dimensional phase contrast MR image (4D-Flow). European Congress of Radiology 2013, March 7-11, 2013, Vienna, Austria.
9. Takahashi M, Takehara Y, Isoda H, Okuaki T, Fukuma Y, Shimizu T, Tooyama N, Ichijo K, Sakahara H: 3D cine PCA enables rapid and comprehensive hemodynamic assessment of the abdominal aorta. European Congress of Radiology 2013, March 7-11, 2013, Vienna, Austria.

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 阪原晴海：RI 測定の基礎。核医学基礎セミナー。第 12 回日本核医学会春季大会。2012. 4. 26-28 (東京)
2. 阪原晴海：内分泌疾患における PET の意義と今後の展開。第 15 回神奈川糖尿病・代謝疾患研究会。2012. 5. 25 (横浜)
3. 阪原晴海：核医学の明るい未来について。第 40 回岐阜県核医学談話会。2012. 8. 25 (岐阜)
4. 阪原晴海：甲状腺と放射線。浜松医科大学公開講座 2012 「無病息災を目指す健康管理」。2012. 9. 2 (浜松)
5. 阪原晴海：放射線科読影医が求める核医学画像とは。第 5 回中部放射線医療技術学術集会ランチョンセミナー。2012. 11. 3 (浜松)
6. 阪原晴海：核医学検査の現状と将来。第 5 回中部放射線医療技術学術集会特別講演。2012. 11. 3 (浜松)

3) シンポジウム発表

4) 座長をした学会名

第 52 回日本核医学会総会 平成 24 年 10 月 11-13 日、札幌

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

阪原晴海 日本医学放射線学会代議員、生物部会幹事

阪原晴海 日本核医学会評議員、理事、腫瘍免疫核医学分科会世話人

阪原晴海 日本心臓核医学会評議員

阪原晴海 日本がん免疫学会評議員

阪原晴海 断層映像研究会世話人

那須初子 日本乳癌学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	1件	0件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

Annals of Nuclear Medicine（日本核医学会）、Editorial Board、PubMed/Medline 登録有、インパクトファクター1.502

(2) 外国の学術雑誌の編集

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

阪原晴海 3回 Annals of Nuclear Medicine（日本）

阪原晴海 1回 Japanese Journal of Radiology（日本）

阪原晴海 1回 Cancer Science（日本）

阪原晴海 1回 Tumor Biology（ヨーロッパ）

那須初子 1回 Japanese Journal of Radiology（日本）

9 共同研究の実施状況

	平成24年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	1件
(3) 学内共同研究	1件

(1) 国際共同研究

(2) 国内共同研究

桑原義彦（静岡大学工学部）マイクロ波マンモグラフィの開発

(3) 学内共同研究

間賀田泰寛（メディカルフォトンクス研究センター）EGFRのインビボイメージングの研究

10 産学共同研究

	平成24年度
産学共同研究	1件

1. 近赤外乳がん検査装置の臨床評価. 浜松ホトニクス株式会社.

11 受賞

(1) 国際的な授賞

(2) 外国からの授与

(3) 国内での授賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 近赤外光乳がん検査装置の臨床評価

浜松ホトニクス㈱が開発した近赤外光乳がん検査装置は乳腺内の光特性を断層像として表示する。この光マンモグラフィの診断、治療効果判定における有用性を臨床的に評価している。術前の化学療法著効例において病巣の総ヘモグロビン量の低下が画像として示された。

(阪原晴海、那須初子、小倉廣之¹)¹ 乳腺外科

2. EGFR のインビボイメージングに関する研究

肺がんや膠芽腫における gefitinib の効果予測を行う目的で大阪薬科大学が開発した [¹²⁵I]PYK を用いて、EGFR のインビボイメージングを研究している。

(阪原晴海、朱蕙君、間賀田泰寛¹)¹ メディカルフォトンクス研究センター

3. マイクロ波マンモグラフィの開発

マイクロ波マンモグラフィは乳房にマイクロ波を照射し、反射波を解析することにより、乳がんの診断に応用しようとするものである。少数例ではあるが、乳がんが陽性に描出された。

(阪原晴海、小倉廣之¹、桑原義彦²)¹ 乳腺外科、² 静岡大学工学部

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道